

道心



禅昌寺通信「道心」第22号

編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室

発行 平成18年7月1日

〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7

TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822

E-mail : zenshoji@bronze.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.zenshoji.org/>

続

扱りの所

日々の営みの基準は……

住職 横山 正賢

よりどころ

修証義第一章第二節
「人身得ること難し、仏法値ふこと希なり、
今我等宿善の助くるに依りて、
已に受け難き人身を受けたるのみに非ず、
遇ひ難き仏法に値ひ奉れり、
生死の中の善生、最勝の生なるべし、
最勝の善身を徒らにして
露命を無常の風に任すること勿れ」

六月一日から九日まで副住職が曹洞宗ヨーロッパ布教総監部（在イタリア・ミラノ）に勤務中、皆さんでイタリアの曹洞宗関係寺院を訪問しようと、檀信徒の方々二十人でイタリア国を訪問し、ミラノ近郊の宗門関係禅センター二ヶ寺と、キリスト教カトリックの総本山バチカン、サン・ピエトロ大聖堂を始め各地の遺跡や観光地を訪問してきました。
六月一日夜遅くにミラノ市のホテルに入り、二日は午前八時ホテルを出発し、

カトリックのサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院を訪問し、かの有名なレオナルド・ダ・ヴィンチ（一四五二～一五一九）が描いたといわれる壁画「最後の晩餐」を拝観して、住職と原護持会長・中山護持会役員の三人は曹洞宗ヨーロッパ布教総監部事務所へ今村総監老師を表敬訪問し、他の一行は直接ミラノから高速道路を走って一時間ほどの「明けの明星禅堂」へと向かった。

この禅堂の代表者フォルザーニ・慈相師は三十年程前に日本に来て。日本各地の修行道場で修行し、イタリアに帰国する前、禅昌寺にしばらく滞在していた人で、懐かしく二十年ぶりの対面だった。私と護持会長等はお昼時に禅道場で台流し、禅道場の皆さんが手作りのイタリア風お精進料理を、古い農家を改造した禅道場の中庭のブドウ棚の下でご馳走になった。

一行は旅行中この料理が一番美味しかったと懐かしんでいた。かといって別のホテルなどで出された料理がまずかったわけではありません。

この禅堂を現地時間午後三時頃、後ろ髪を引かれる思いで別れを告げ次の訪問先へ、さらに半時間ほど走って「普曇寺」を訪ねた。

丁度接心（二日中食事と用足し以外の時間は坐禅で通す）中にも関わらず、三十人ほどの修行者が住職とともに出迎えてくださった。

境内の環境も日本の古い時代の田舎の禅寺を醸す広大な敷地に、日本風の伽藍が整えられつつあった。山内を案

内されて、宗祖道元禅師の宗風が伝えられていた懐かしさを覚えました。

なぜこれ程までにヨーロッパやアメリカの人たちが禅や仏教に興味を持ち、さらに人生の扱りの所としているのだろうか。

異教徒・異文化・異民族の葛藤が絶えなかった歴史の中に育った方々が仏教に出会って、その教えが新鮮な感覚で受け入れられ、生活に溶け込んで落ち着いた雰囲気を感じました。

仏教という宗教の原点は宗派を問わず、「己は他によつて生かされる故に、自然を敬い、他を生かすが故に己も生かされる」ということです。排他的考えや行動があつては仏教とは言えないし、仏法とも言えないのです。

欧米の人々が仏教に皈依されるのもこのような仏法に遇ったからだと思えます。（しかし実際には宗派間の対立や排他的説法や行動があります、真の仏教に目覚めていない人々が多くあることは残念です。）

帰国したら早速起稿しなければならぬ「道心」二十二号巻頭言、修証義第一章第二節を考えながらの道中「いま生かされているこの生は、己の命となるまでに、諸々の宿縁を戴いた、どんなに貴重なものか、欲望におぼれて流されやすい人の世にあつて、この真実の教えにふれることができ、真の命の値に気づかせていただき、明日は露の命と消え逝くかもしれない、今この時を疎かに生きられようか」という思いが伝わってきました。

生も死も、

永遠の命の一時の位なのです。

愛知専門尼僧堂堂頭 青山 俊董

《その日の夕暮れ、金色の光の中をダニエルは枝を離れて行きました。

「さよなら、フレディ」ダニエルは満足そうな微笑を浮かべ、ゆつくり静かにいなくなりました。

フレディは一人になりました。次の朝は雪でした……》

晩秋の信州は真夏から一足飛びに真冬を迎えたかのような厳しい寒さです。塩尻駅のホームに降りた私は思わず衿もとをかきあわせながら小走りに改札口を出て、迎えに来てくれた弟子の車の中へ逃げ込みました。その車の中でこの森繁久彌が朗読する『葉っぱのフレディ 命の旅』を初めて聞いたのです。それは私の心を釘付けにしました。

《明け方、フレディは迎えに来た風に乘つて枝を離れました。痛くもなく、怖くありませんでした。フレディは空中にしばらく舞つて、それからそつと地面に降りてゆきました。

その時初めてフレディは木の全体の姿を見ました》

これはアメリカの著名な哲学者、レオ・バスカーリア博士が「死別の悲しみに直面した子どもたちと、死についての確な説明ができない大人たち、死と無縁のように青春を謳歌している若者たち」のために書いた、生涯でただ一冊の絵本の中の一節です。それを森繁久彌の朗読と東儀秀樹の音楽で構成したものがCDとなって売り出されていたものを弟子が車中で聞かせてくれたのです。

春に生まれ、たくさんの葉っぱのお友達と夏を楽しく過ごし、子供やお年寄りのために涼しい木陰をつくったり、兄貴分のダニエルからいろいろなことを教えてもらったりしてフレディはやがて秋を迎え赤や黄にと美しく紅葉し、そして木枯らしとともに地上に舞い降りました。親木から離れて初めて木全体を見ることができたフレディはダニエルから聞いていたいのちという言葉葉を思い出します。森繁久彌の朗読は続く。

《いのちというのは永遠に生きているのだということでした。フレディが降りたところは雪の上です。柔らかくて、意外に暖かでした。引越し先はフワフワして、居心地のよいところだったのです。フレディは目を閉じ、眠りに入りました》

やがて春になり、雪が溶けると、枯れ葉のフレディは水に溶け、新しい葉を生み、木を育てる力となってゆく……。車は無量寺の玄関に着きましたけれど、私は車の中に座ったまま、最終章まで聞かせてもらいました。

木の葉の物語は

《大自然の設計図は寸分の狂いもなく、いのちを変化させ続けているのです。また、春が巡ってきました》

と締めくくられております。アメリカの哲学者の語る死生観が仏教の死生観そのものであることに驚くと同時に、宗教的言葉の匂いを少しも持たせずに一枚の葉っぱの「いのちの旅」という形に象徴して、人の命の姿やありようをみごとに語っていることに、深い感動を覚えたことでした。

永遠の命に還っただけです

その翌日、つい最近に母を失ったばかりの一人息子の青年が無量寺を訪ねてきました。

「母はどこへ行つたんでしょう？僕たちは死んだらどうなるんでしょう？」と、青年は真剣なまなざしで問いかけてきました。さっそく『葉っぱのフレディ』のお話を引用しながらこんなお答えを致しました。

「どこへもゆきません。あなたの目には見え、手にも触れることができず、声もあなたの耳には聞こえないかもしれないけれど、無くなってしまうわけではないのよ。永遠の命に還っていっただけなのです」

そしてわかりやすい例として、まじ・みちおさんの「水は歌います 川を走りながら」という詩を紹介しました。

海である日の渺々を
海だった日の渺々を

雲になる日の悠々を
雲だった日の悠々を
雨になる日のザンザ力を
雨だった日のザンザ力を
虹になる日のヤッホーを
虹だった日のヤッホーを
雪や氷になる日の
コンコン コンコンを
雪や氷だった日の
コンコン コンコンを

過去形、未来形、過去形、未来形と織りなしながら、一つの水が縁に従って、同じ水でも川の姿をとる時、雨の姿をとる時といろいろあります。条件が変われば気体の姿にもなる。気体の水分もさまざまな雲の姿に変わる。時に美しい虹となったり、条件次第では一転して雪や氷という固体の姿にもなります。雲や雪や氷のように一度具体的姿をいただいたら、間違いなく始めがあり、終わりがあります。しかし、無くなってしまうわけではありません。雲は雨に、あるいは雪や氷にと、縁に従って無限に変わりつつ永遠の命を生き続けているのです。この詩の雲や雨や雪のところに私やあなたの命を置き換えて見てください。私という具体的な姿をいただき、あなたやあなたのお母さんという具体的な姿をいただいた限り、必ず終る日が来るのは当たり前なのです。

生も死も一時の位なのです

まじ・みちおさんは詩の最後を、

水は歌います

川を走りながら

川である今のドンドコを

水である命の永遠を

の言葉で結んでおられます。すごい結びの一句ですね。永遠の水の命、いま私は川という姿でいただいている。その川のドンドコに命をかける、雨の配役になったら雨のザンザ力に命をかける、それがそのまま永遠の水の命を生きることになるのだというのです。道元禪師はこれを、「生も一時の位、死も一時の位」とおっしゃいました。水という永遠の命の中であって、川という位の時、雲という位の時、雪という位の時があるように、永遠の仏の命の生という位の時、老・病・死という位の時ということなのです。私たちは、みんなしょうじ生死なき仏の命を生死する。そこにあって、いずれの配役も、老いも、病いも、ぼけも死も一時の位であって、仏の命からはずれつこない命の一步として、大切にいとおしみながら歩んでゆくということではないでしょうか。人生を大切に生きるといいう生き方も、これよりほかにはないのでしょうか。

イタリア紀行

佐伯区 禅昌寺護持会会長 原 一彦

昨年、泰賢さんがヨーロッパ総監部在任中にイタリア旅行をしたという要望があり、二十名で六月一日に関西空港を出発し九日に帰国しました。

ミラノから、水の都ベネチア、メディチ家所有のルネサンスの美を集めたフィレンツェ、ピサの斜塔、カプリ島の青の洞窟、ポンペイの遺跡、ローマ時代の栄華、ヴァチカン市国等、連日観るもの、聞くものが感動と驚嘆の連続の旅でした。紙面の都合で特に感じた事、思った事を記すことにしました。



六月一日 広島駅新幹線口に集合。

十二時四十分 アリタリア航空で関西空港を飛び立った。ミラノまで飛行距離九七二六キロ、時速九百キロ、高度一万メートル。シベリアの上空で少し揺れはあったが順調に飛行した。乗客は限りなく日本人でその内ほとんどが女性であった。十二時間半のフライトの後、現地時間十六時ミラノ空港着。入国手続き後二十時ホテル着。

二日 サンタマリア・デレグラツツェ教会付属の旧ドメニコ修道院の食堂にダ・ヴィンチが描いた「最後の晚餐」の実物を鑑賞出来て感動した。

一四九四年頃に描かれて、近年二十年に渡る修復を終えてオリジナルに近い状態で観ることが出来た。

その後、ガッレリアの優雅なアーケードを通り、ミラノ「ドォーモ」を見学。一三八六年着工し完成まで五百

年の歳月を費やしたイタリアのゴシック建築を代表する大聖堂。外部の大理石を磨いていたが、建物を一周するのに十年掛かる由。午後は今回の旅行の目的の一つでもある、曹洞宗ヨーロッパ総監部を表敬訪問しました。人口六千万人の国民の九割がカトリック教徒という異国で地道な活動をしておられる様子を伺い敬服しました。その後ミラノ郊外のアルバニア地方にある道場（約千年前の農家を改築して使用）を訪問して、自給自足で修行をされているイタリアの人達の慎ましくも厳しい生活を拝見しました。又本堂・座禅堂もある禅寺を訪ねました。ここも古い農家を譲り受けて、将来は永平寺を模して自力で建築が進んでいました。

三日 ミラノからベローナへ。アディシエ川に囲まれた町並みは、歴史的建物が多く世界遺産に指定されている。しかし、結局「ロミオとジュリエット」ゆかりの町、二人が言葉を交わしたというバルコニーだけが記憶に残った。

「水の都」ベネチアは、一一八の島と四百の橋でつながれている。千二百年頃に東方貿易と十字軍関係で巨万の富を得て、サンマルコ大聖堂やドゥカレ宮殿など世界遺産級を次々と建設した。サンマルコ広場で映画「旅情」の情景を思い浮かべ、テラスでディタイムをした。楽団が「瀬戸の花嫁」を演奏してくれた。

四日 フィレンツェは市街が一望出来るミケランジェロ広場から、この地で政治・経済に権勢を振るったメディチ家が財力で集めた、ルネサンスを



代表する傑作が展示してある「ウフィッツイ美術館」で古代から一八世紀までの芸術様式の変遷が見れる。代表作は、ダビンチの「受胎告知」、ミケランジェロの「聖家族」、ボッティチエリ
の「ヴィーナスの誕生」など必見の作品を鑑賞した。

五日 ピサ 古代ローマの軍港として栄え海洋国家として発展した。ピサの斜塔は一一七三年建設が始まり、高さ五五メートル、直径十七メートルの円筒形八層からなり、三層目ができた頃から傾き始めたという。

午後は、フィレンツェ駅からユーロスター（イタリアの新幹線）でナポリへ行くべく駅に行ったが、列車は約一時間遅れで理由は分からず「運休にならず良かった」と言われた。遅れるのは日常茶飯事だそう。駅には改札口はなくホームは一般通路にもなっていて改札は車内で行われる。イタリアの国民性が良く出ていると思う。三時間半（十九時五十分）でナポリへ着いた。

六日 ナポリから地中海のリゾート地「カプリ島」ローマ皇帝達も魅了した「青の洞窟」へ、手漕ぎの小舟に乗り換えて高さ一メートルの洞窟の入口をすり抜けるように入ると、中は一面深い青の世界。あちこちから感嘆の声が挙がった幻想的なブルーは狭い入口と太陽光線が生み出す自然の神秘。

再びジェット船でナポリに戻り、「ポンペイの遺跡」紀元七九年ヴェスヴィオ火山の大噴火で埋没した町。紀元前からローマの支配下で別荘地・商業地として栄えて、二万人が生活し

ていたそう。古代遺跡を見学している途中、急に激しい雷雨に見舞われた。太古の時代に地震・大噴火で埋没した町を、私達団体が訪れた時に、稲光のする激しい雷雨とは、何かを感じたのは私だけでしょうか。

七日 今日はイタリア観光最後の日。ローマ市内観光で今朝は久しぶりにゆつくりと八時半の出發。バスを降りて「コロッセオ」（紀元八十年頃に完成した円形競技場）に向かう途中、注意していたが二人連れのスリに遭遇した。被害は無かったが、シオルダーのチャックが開いて驚いた。治安は悪い。観光客、特に日本人を狙うスリ・引ったくり等が多いそうです。その後中心部にある「トレビの泉」へ。後ろ向きでコインを投げると願いが叶うと言われ、私も願をかけて後ろ向きの肩越しに硬貨を投げた。

「スペイン広場」、映画「ローマの休日」で有名になった広場で、ヘップバーンがソフトクリームを頬張りながら歩いた、一三七段のスペイン階段を登り、しばし主人公気分浸った。午後は、世界最小の独立国「ヴァチカン観光」。丁度午前中法王のミサがあり、私達が訪れた時は広場一面の椅子を片付けていた博物館・システイーナ礼拝堂には世界的な絵画、特にミケランジェロの天井画「アダムの創造」と祭壇画「最後の審判」は必見の作品で感動し、圧倒された。

カトリックの総本山でローマ法王が在のサンピエトロ寺院は、聖ペテロの殉教の地に四世紀に建てられ、十六世

紀に百二十年かけて大改修がなされた。しばしの間、三十万人収容出来るという、ヴァチカン広場に佇み想いに耽っていた。夕食は、カンツォーネのディナーでワインを飲みながらイタリア最後の夜を楽しんだ。

八日 ローマ空港からミラノ空港に飛び、出国手続きをして十六時ミラノ空港を飛び立ち帰国の途へ。復路はロシア上空までは往路の逆をたどり、南空を経由するコースで飛行も順調で、九日 十時に関西空港に着いた。JR関空快速で新大阪、新幹線に乗り継ぎ、広島駅で解散式をして帰路に着いた。

イタリアの観光は、世界遺産を観光する旅である。ユネスコ認定の世界文化遺産は約五百で、三十程がイタリアにあり、ローマ建国前からの約三千年の長きに及び、キリスト教という宗教美術を発展維持し、ルネッサンスという革新的な文化活動があったことに拠るのである。

今回の禪昌寺関係のツアーは二十名で、檀家の人・座禅会の人・お茶会の人達と、共に観光し・共に飲食し・共に語り合い皆様と懇意になれたことが大きな土産になったと思います。このような素晴らしい旅行を企画して下さい、方丈・泰賢様に感謝致します。

旅とは、新しい事を学び触れる機会であり、これからもっと旅に出たいと思っています。確実に忍び寄る老魔（ローマ）と戦いながら自身の啓発の為に旅をしたいと強く思ったイタリア旅行でした。 グラッチェ





草枕

夏

東区

『草枕』は明治三十九

東区 矢野 淑子

「草枕」の冒頭の書き出しは、あまりにも有名な詩からはじまり、画家の芸術観が展開されてゆく。

画が出来る。
人の世を、作つたものは、神でもなければ鬼でもない。
矢張り向こう三軒両隣りに、ちらちらする唯の人である。
ただ唯の人が作つた人の世が住みにくいからとて、越す國はあるまい。
あれば人でなしの國へ、行くばかりだ。人でなしの國は、人の世よりも猶^{なほ}住みにくからう。
越すことのならぬ世が、住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容で、束の間の命を束の間でも住みよくせねばならぬ。』

この世の中は、理知にたよつても、人情の流れにまかせて意地を張つてみても住みにくいようになつてゐる。出来るだけ住みよい所へ、引つ越してみても住みにくいようにしたのは唯の人間なのだから、住みにくいことに変わりはない。

それがよく分かつた時、住みにくい所で「束の間の命を、束の間でも住みよくする」ということである。

この画家の芸術観は、当時の漱石のそれであつたと云える。

「世に住むこと二十年にして、住む甲斐がある世と知り」

二十五年にして、明暗は表裏の如く、日のあたる所には、きつと影がさす悟り」

三十の今日は、喜び深きとき、憂い愈々深く、楽しみの大いなればなる程苦しみも大きい」

とも、云つてます。

明るい笑いで始まった、この作品も最後は諦めの境地に落ちつかざるを得ない。作品に出てくる苦言もその一つ。

また、

「吾人は、自由を欲して自由を得た。自由を得た結果、不自由を感じる」

「呑気と見える人々も、心の底を叩いて見るとどこか悲しい音がする」と云っています。これが『我輩は猫である』の、知識人達の行きついたところなのです。

漱石の多くの作品を見ても、そうした考察を続けた結果、激しい戦いに挑むことより、それらを許す大きな立場を理想と考え、晩年に到達した人生観を「則天去私」と云う言葉で残しています。漱石のそれらは、時代が移り変わっても常に新しく、常に時代に当てはまる見事な「小説」「詩」であると云えます。

続

ガンと同居となった この五体をどうしよう！

道心庵主

貴重な体験をして、
ただ私の葛藤・私の喜び・私の病として
終わらせたくない……
明日は貴方かもしれないから……
参考になればという思いで綴ります。

四月十二日 水曜日 広島日赤病院内分泌
内科にて甲状腺超音波検査を受けた結果、五ミ
リ程の腫瘍が鮮明に映し出されたものを自らも
確認する。これを発見した名医を友人に持った
事を感謝するのみである。
四月十八日 火曜日 広島日赤病院にて採
尿採血の後、先週内分泌内科担当医師が超音波
の映像を視ながら、直接甲状腺の細胞を採取し
た検査の結果「甲状腺腫瘍（乳頭癌）と判明し
た。

私のごく身近な家系には未だガンにかかり、
それによって死亡したという者はいないし、私
自身健康チェックに気をつけ、妻は日常の食生
活には格別バランスを重視し、健康食に配慮し
てくれているということもあってか、一年に一
度の血液検査では毎回中性脂肪が理想的数値を
二十三〜四高い位でその他は全て理想的数値圏

内であることを自負していたのである。

昨年風邪を引いて体調を崩し、掛かり付けの
ホームドクター（西区草津）までは気も重く、
町内の女医さんに診ていただいた時のことであ
るが、私の年齢と体型からは想像もつかなかっ
たのでありましょう、中性脂肪以外の数値は全
て理想的数値内にあることに「こんな健康的な
血液、滅多にありません」と驚いていた程、血
液検査が健康数値・快食・快便であればガンな
ど掛かりはしないと思っていた。

私は「ガンの宣告をうけた」というような
悲観的な受け止め方はしておりません。疑いが
もたれたときから、仏様よりガンを患う人の苦
しみを体験し自らに生き方を尋ねるよう授かつ
たものと受け止めている。

「道心二十一号」の此の項の記事を読まれ
た檀家の方で、広島大学医学部教授K先生から
ご懇切なメールを戴いた。その内容は「甲状腺
ガンは転移しにくいとはいっても、難しい
手術ではないから早いうちに処置をした方がい
い、専門医の紹介もする」という趣旨であった。
主治医に「自然治癒」に挑戦したい旨を話
すと「此の箇所此のガンは」九十九パーセン
ト不可能でしょうといわれた。前立腺の末期ガ
ンで手術もできない状態で、全てをなげうって
田舎の山寺にこもり、自然治癒に専念した友人

に電話をして相談をしてみたが、君にはできな
いだろうと言われた。日常生活の全てをストレ
スの溜まらないように自然に任せる生活ができ
て実現可能であるが君のおかれている環境では
無理と言ったことであつた。

最初に腫瘍を発見してくれたホームドクターは
小・中学校の同級生で何でも忌憚なく話せる間
である。

「甲状腺のガンは転移しにくいガンで、命
も十年位は脅かされないだろうが、見つけた以
上は、早いうちに取っておく方が賢明である」
と言ってくれた。

ここで「十年は命に問題はないであろう」
といわれたとき、私は「二体幾つまで生かされ
ればいいのか」と自らに尋ねてみた。もちろん
授かった命をいくら詮索してみてもどうしよ
うもないことである、健康で長生きできることは
理想ではあるが……。

最近では「親より先に逝く親不孝」という
現象にしばしば出会うことを思うと、必ずしも
長寿が幸せとはいえない現実がある。

戦後の貧しい時代を体験したことも、農地
解放になって一夜にして貧しくなった父のお陰
でお金では買えない苦学を体験し、多くの出会
いに恵まれたこと、全てが今の自分を生かして
くれたことを思うと、今更なにを望むのかと尋
ねる自分があつて、せめて孫の成長を見届け
たいという願望に気づく……

それは尽き果てぬ欲望であることは申すま
でもない、迎えが来ればそろそろ諦めろと言う
自分もいることに気づかせてもらった。

皆さんのアドバイスを素直に受け入れて五
月七日日曜日夕刻入院、五月八日月曜日手術す
ることとした。

― 次号に続く ―

◆道心趣味の会◆

俳句

- 初音して 天地の肩 ほぐれけり
- 耕運機 タンタンタンと 日永かな
- 春の鳶 生死委ねし 風に舞う

廿日市市 伊藤 順一郎

- 本堂に 響くピアノや 薫風裡

- 老鷲や 写経の御座の 静けさに

- 泰山木 咲きて定まる 寺庭かな

- 緋牡丹や 無常の雨に くずれけり

東区 青世 俊校

◆行事報告◆(四月～六月)

- 四月八日(土)～四月九日(日)

- ・高野山参拝と吉野千本校お花見

四国八十八ヶ寺霊場巡り満願して高野山へお礼参り、吉野の桜は下段～中段は七・八分咲き一行四十二人お天気にも恵まれ感動の旅でした。

- 四月十五日(土)

- ・婦人の集い

せつかくの集いでしたが、雨天のせいもあってか三人の参加者と寂しかった。金曜日の婦人座禅会と

続くこともあってかと反省し今後再考いたします。

- 五月二十日(土)

- ・蕨山森林浴

三十二人の申し込みでしたが、前日の「各地で豪雨と嵐」との天気予報により、前日のうちに中止としました。

◆行事案内◆(七月～九月)

■毎週定例行事

- 晴天坐禅会 月曜日～金曜日

毎朝午前五時十分～五十分まで

- 水曜坐禅会

午後七時より坐禅・茶話会 終了八時半

- 婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会 終了三時(第一金曜日のみ坐禅の後、写経・茶話会)

※八月の坐禅会は休みます、九月一日早朝坐禅から再開します。

特別企画ご案内

青山俊重尼老師の寺と長野善光寺白樺湖・草津温泉・上諏訪温泉信州路の旅

・日時 十二月三日(金曜日)～五日(日曜日)(三連休)

・参加費 六万五千元

※希望者には資料を送ります、お電話下さい。

■毎月定例行事

- 上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第二又は第四金曜日の予定 午後二時から

※お抹茶と和菓子を楽しみに暮らすつもりでご参加下さい。

● 御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習
第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合により変更する場合もあります。初めて参加される方は、お寺に電話にてご確認下さい。

■恒例行事

- お盆前伽羅掃除

七月三十日(日) 午前十時より
お昼まで

お子さんお孫さんの情緒教育のためにも是非一緒に参加下さい。子供たちは楽しそうに雑巾かけ等してくれます。お昼お素麺を用意いたします。

● 孟蘭盆会法要

八月六日(日) 午前十時半より
法要・法話・パンと飲み物供養あり 午後十二時半解散

※檀信徒のみなさまには別途ご案内いたします。

- 青山俊重老師講演会

九月三十日(土)

午前の部 午前十時半～十二時
午後の部 午後一時半～三時
(坐禅をされる方は九時より)

参加費 二千元

(午前・午後のみの方は各千円)
昼食代一人 百円

※昼食は持参されても結構です。

(お茶はご用意致します)

◎昼食が必要な方はお電話にてお申込み下さい

第6回 お月見コンサート

青島広志氏をお迎えして

ピアノ&フルート ジョイントコンサート



ピアノ…青島広志



フルート…大代啓二

10月7日(土)

午後6時30分開演

入場料：2000円

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。